

アジアの大学における技術職員の役割

野呂明美 (生物資源学部 共生環境学科)

はじめに

日本の国立大学は2004年4月に法人化され国立大学法人となった。政府・文部科学省は今後、運営交付金を毎年1%づつ減らしていくと言う。これからは生き残りを懸けて大学でも一般企業のように効率化、経費削減が大きな課題となるであろう。また、18歳人口の減少により一部の私学では学生獲得が難しくなり、ボーダーフリーの大学が出てきている。日本の大学がこのような状況の中、海外の大学、とりわけ経済が急成長している中国、タイの大学はどのような環境にあるのか調査したので報告する。

調査方法

下記の3種類の手段にて必要な情報を収集した。

1. 当講座に在籍している留学生に対し、和文または英文のアンケートを手渡しインタビューを行い情報を収集した。
2. 海外の大学に留学している本学の学生に協力を求めE-mailを利用して情報収集をした。
3. 2004年11月に中国の清華大学、2003年12月にタイのカセサート大学、チェンマイ大学を訪問した時に情報を収集した。

アンケートにて情報を収集した大学

- Chiang Mai University (タイ)
- Khon Kaen University (タイ)
- Bogor Agricultural University (インドネシア)
- University of Bohol (フィリピン)
- 東南大学 (中国)

- 吉林工学院 (中国)

チェンマイ大学 (タイ)

タイにおいて日本の東京大学に相当するのはチュラロンコン大学である。チェンマイ大学はタイの大学の中で農学分野では5位以内に入る大学である。以下にチェンマイ大学の教職員・学生数のデータを示す。

Chiang Mai University	
Permanent Staff	
Teaching	1,844 名
Teaching Support	1,696 名
Administration	1,656 名

From: Annual Report, Ministry of Education in Thailand 2003.

また、チェンマイ大学のホームページでは教職員数は下記のように記している。

Chiang Mai University	
Teaching Staff	2,078 名
Professor	28 名
Associate Prof.	391 名
Assistant Prof.	508 名
Lecturer	1,151 名
Administration Staff	8,607 名
Under Graduate	17,994 名
Graduate	5,805 名

From: www.cmu.ac.th/2004/glance.htm

下の表の人数が上の表に比べて多いのは非常勤職員、短期契約職員を含むためであると思われる。Administration Staffが特に多いのは技術職員、事務職員、附属学校教職員、附属病院職員、ゲストハウス職員、

ガーデナー、清掃職員など全ての職員を含む人数を記しているためであろうと推察される。Permanent Staffを日本の大学と比べるとTeaching Support, つまり、技術系職員が非常に多いのに驚かされる。教授の人数が極めて少なく、教授のStatusは極めて高いことが分かる。タイの大学では学部長が助教授あるいは助手だったりすることがあるがこれも日本と異なる点である。

図1にチェンマイ大学農学部の組織図を示す。組織を教育、研究、事務に分けて見ると職員数は教員120名、研究員40名、事務職員40名から成る。チェンマイ大学でTechnicianと呼ばれている人の仕事内容は日本のティーチングアシスタントに相当する。技術職員と職務内容が似ているのはScientific Researcherである。

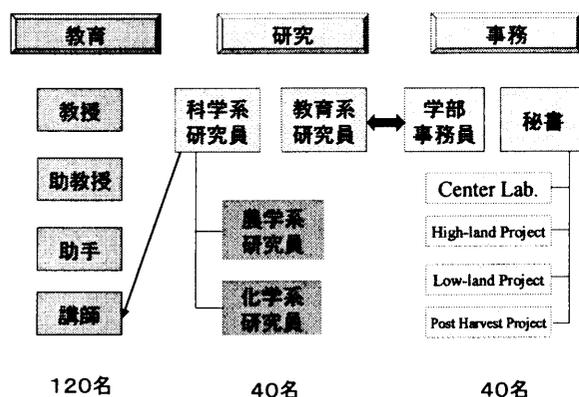


図1. チェンマイ大学農学部の組織図

Scientific Researcher は学科に所属している。ほとんどの Scientific Researcher が PhD や Master を持っているおり、この点で日本の技術職員と異なる。日本では講師は助教授と助手の間に位置するが、Lecturer は助手の一手手前の職である。

「Lecturer が実験のガイダンスを行い、Scientific Researcher が器具の取扱などの実験中の指導をする。」という点からも Scientific Researcher の職務内容が日本の大学における技術職員に近いことが分かる。「Lecturer の席が空くと Scientific

Researcher の中から後任を補充することもある。」「Educational Researcher は授業の運営・効率、学生の Motivation を上げる方法など授業方法について研究をしている。調査を行い調査資料を基に統計的処理を行い研究しているので事務と連携して共同で仕事をすることもある。」とのことである。Educational Researcher は日本の大学では見られない職種であるが、今後教育に重点を置くとすれば必要な職かも知れない。

これらの点を総合的に考慮に入れるとチェンマイ大学の Scientific Researcher は日本の国立大学の教務職員または技術職員に最も近いと思われる。

コンケン大学 (タイ)

コンケン大学の常勤教職員・学生数は以下の通りである。

Khon Kaen University	
Permanent Staff	
Teaching	2,031名
Teaching Support	1,143名
Administration	1,206名
Under Graduate	15,019名
Graduate	3,413名

コンケン大学はチェンマイ大学と同様、地方の有名な大学の1つであり、タイの大学の中で農学分野では5位以内に入る大学である。技術職員、事務職員の数は事務職員数の方が少し多いがほぼ同程度の人数が雇用されていることが上記の表より分かる。

次にコンケン大学の Technician (技術職員) の Academic Background を図2に示す。技術職員の約80%が高校卒業後、2年間 High Level Technical School にて学んだ後、技術職員として採用されるとのことである。日本に置き換えれば高専、短大あるいは専門学校卒業の学歴を有するというこ

とになる。

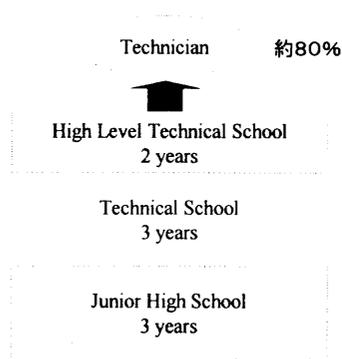


図2. コンケン大学の技術職員の学歴

彼らの職務内容は日本の大学における技術職員とほぼ同じで下記に挙げた通りである。

- ・ 機器類の保守と操作方法の説明
- ・ 技術的な相談への対応授業（実験・実習）の準備と補助
- ・ 自分のテーマを研究

OJT (On the Job Training) は実施されているが、まだ緒についたばかりでこれからだとのことである。

ボゴール農業大学（インドネシア）

ボホール大学（フィリピン）

Technician は各研究室に最低 1 人は配置されている。OJT は実施されている。Technician には高卒、大卒の人がいるがほとんどが高卒である。職務内容は両大学ともコンケン大学とほとんど同様である。

中国の大学

中国の大学は、今、激しく合併を繰り返している。合併により大学の規模がどんどん大きくなっている。

技術職員は実験員と呼ばれ、職務内容は機器類の保守と操作が主である。中国では実験機器は貴重なので学生に直接操作させたりすることはなく、実験員は実験室には必ず複数名いる。

実験員はほとんどが専門学校（短大・高

専レベル）を卒業している。中には卒業生の中から選ばれ採用されるケースもある。賃金に大学間格差はなく職、年齢、学歴などが同じであれば同等である。

中国は経済成長が著しく、大学の様子も 2～3 年で大きく変化することである。したがって、来日してから 4～5 年経過している留学生にアンケートしても様子が変わっているので現状は分からないとのことであった。

まとめ

アジアの大学では日本と異なり教育研究を支える事務・技術職員が数多く雇用されている。これは人件費が安価であるということ、国策として国民の就労先を確保し国民の生活を安定させるようにしていることなどが背景にあると思われる。今の日本では人件費を圧縮する方向にあり、高額装置に専属の技術職員を配置することは極めて少ない。国策も経済的な危機から公務員の数を削減する方向で進んでいる。

チェンマイ大では研究員として技術職員が雇用されている。これもまた一つの運営形態である。コンケン大でもチェンマイ大でも技術職員はタイ語、英語、双方を何不自由なく使用している。この点については大いに見習い、三重大学が国際的に発展するためのベースを築きたいものである。

謝辞

今回の調査にご協力頂いたタイからの留学生、Mr.Chanoknun Sookkummerd、インドネシアからの留学生 Ms.Lenny Saulia、フィリピンからの留学生 Mr.Rodorigo Restificar Pechon、中国からの留学生齊鳳菊様、李可様、郁余佳様、情報提供頂いた先生方、チェンマイ大学への短期留学生エネルギー利用工学研究室隠地正明氏に深く感謝致します。